

博報堂教育財団 こども研究所 が 小中学生*2,400人に調査した「こども定点2025」を発表

小中学生が〈ふだんしていること〉 2023年から2025年で旅行やレジャーなど“お出かけ”が増加、 “読む”が減少

*小中学生=小4~中3生(以下同様)

公益財団法人博報堂教育財団の調査研究機関こども研究所は、子どもの中長期的な変化を見る時系列調査「こども定点2025」を実施しました。本調査は、子どもを“体験を通して成長する主体的な存在”ととらえ、「体験」を起点に、「人との関わり」「意識・価値観」「自己認識」など幅広い分野で聴取しています。2023年にスタートし、今回で3回目を迎えました。本リリースでは、第1回(2023年)と今回(2025年)のスコアを比較する時系列変化分析の一部をご紹介します。この3年の変化は決して大きいものではありませんが、いくつかの項目からは、コロナ後の子どもたちの体験や意識がゆるやかに変化している様子が見えてきました。

〈ふだんしていること〉2023年→2025年の時系列変化

〈ふだんしていること〉では、ふだんの生活の中でのさまざまな体験、71項目について聴取しています。2023年から2025年でスコア**が上がった項目の差分上位を見ると、「映画をみる(2023年から+5.1pt、以下同)」が1位になったほか、「国内旅行に行く(+5.0pt)」「ショッピングモールやレジャースポットに行く(+3.6pt)」といった“お出かけ”関連の項目が上位にあがりました。第1回調査は2023年9月で、新型コロナウイルス感染症の5類移行(2023年5月)後でしたが、データからは子どもたちの活動が3年をかけてじわじわと増えてきた様子が読み取れました。一度立ち止まった子どもたちの生活がふたたび動き出すまでには、想像以上に長い時間を要したのかもしれませんが。

一方、スコアが下がった項目の差分上位を見ると、「学校や塾の授業をオンラインで受ける(-5.0pt)」が1位となったほか、「雑誌をよむ(-4.9pt)」「本をよむ(マンガや雑誌以外)(-4.4pt)」「マンガをよむ(-3.0pt)」と、“読む”関連の項目のスコアが軒並み下がる結果となりました。

**「よくしている」「たまにしている」「していない」の3択のうち、「よくしている」と「たまにしている」計のスコア

〈ふだんしていること(よくしている+たまにしている計)〉 ※有意差がある項目のみ抽出

↑ 上がった項目 差分TOP 5

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 → 2025年
1	映画をみる	73.8	78.9	+5.1pt
2	国内旅行に行く	71.0	76.0	+5.0pt
3	ショッピングモールやレジャースポットに行く	84.3	87.9	+3.6pt
4	友だちと晩ごはんを食べる	19.5	22.9	+3.4pt
5	メッセージアプリ、チャットアプリを使う	64.9	68.3	+3.4pt

↓ 下がった項目 差分TOP 5

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 → 2025年
1	学校や塾の授業をオンラインで受ける	21.3	16.3	-5.0pt
2	雑誌をよむ	28.7	23.8	-4.9pt
3	本をよむ(マンガや雑誌以外)	71.2	66.8	-4.4pt
4	マンガをよむ	73.5	70.5	-3.0pt
5	学校に行き勉強する	89.8	88.0	-1.8pt

本件に関するお問い合わせ

- 博報堂教育財団 こども研究所 担当：亀田・島津
<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/contact/> (博報堂教育財団お問い合わせページ)

小中×男女別〈ふだんしていること〉2023年→2025年の時系列変化

〈ふだんしていること〉の時系列変化を、小中×男女別の4層で見ると、各層の特徴が見えてきました。

〈ふだんしていること(よくしている+たまにしている計)〉※有意差がある項目のみ抽出

小学生男子

近年の小学生のスマートフォン利用率の伸長*を反映して、「メッセージアプリ、チャットアプリを使う」が増加しました。

*モバイル社会研究所「モバイル社会白書2025年版」P188

↑上がった項目

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	メッセージアプリ、チャットアプリを使う	36.0	43.2	+7.2pt
2	地域の活動に参加する (自治会、町内会、子ども会など)	40.3	46.5	+6.2pt
3	国内旅行に行く	76.5	81.7	+5.2pt
4	困ったことや悩みを、家族に相談する	80.3	85.5	+5.2pt
5	外で体を動かして遊ぶ	85.0	89.7	+4.7pt

↓下がった項目

有意差がある項目はなし

小学生女子

「好きな人やグループを推す、応援する」が大きく増加し、小学生女子にも推し活が浸透しつつあることがわかりました。

↑上がった項目

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	好きな人やグループを推す、応援する	57.8	66.7	+8.9pt
2	国内旅行に行く	77.7	84.0	+6.3pt
3	好きなものを集める	87.8	93.2	+5.4pt
4	ショッピングモールやレジャースポットに行く	87.5	92.0	+4.5pt
5	知っていることや得意なことを家族に教える	94.0	96.5	+2.5pt

↓下がった項目

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	雑誌をよむ	33.8	24.8	-9.0pt
2	学校や塾の授業をオンラインで受ける	20.5	13.0	-7.5pt
3	マンガをよむ	75.7	69.2	-6.5pt
4	通信教育を受ける	35.2	29.3	-5.9pt
5	留守番をする	83.3	78.8	-4.5pt

中学生男子

「授業以外で歌を歌ったり、楽器を演奏する」や「映画をみる」など、文化的な活動への関心が高まっているようです。

↑上がった項目

順位	項目 (差分上位5項目)	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	授業以外で歌を歌ったり、楽器を演奏する	34.7	43.0	+8.3pt
2	映画をみる	70.8	78.0	+7.2pt
3	動物や虫などの生き物とふれあう	31.8	38.7	+6.9pt
4	授業以外で絵をかく、工作する、ものを作る	27.8	34.2	+6.4pt
5	友だちと晩ごはんを食べる	23.5	29.2	+5.7pt

↓下がった項目

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	学校や塾の授業をオンラインで受ける	23.5	18.8	-4.7pt

中学生女子

「映画をみる」が特に大きく増加しました。

↑上がった項目

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	映画をみる	75.8	84.0	+8.2pt
2	SNSをみる、投稿する	72.3	77.3	+5.0pt
3	友だちと楽しくおしゃべりする	95.0	97.7	+2.7pt

↓下がった項目

順位	項目	2023年 (%)	2025年 (%)	2023年 →2025年
1	雑誌をよむ	37.0	28.8	-8.2pt

「こども定点2025」調査概要

- ◆調査目的 : 子どもの体験や体験を通して形成される価値観、自己認識などを時系列で把握する。同じ条件の対象者に、同じ質問で継続的に実施してデータを蓄積することで、中長期的な子どもの変化を見ることを目指している。
- ◆調査手法 : インターネット調査
- ◆調査エリア : 全国
- ◆調査対象者 : 小学4年生～中学3年生の男女：2,400人
- ◆割付 : 1学年あたり男子・女子 各200人×6学年 (人)

学年	性別		計
	男子	女子	
小学4年生	200	200	400
小学5年生	200	200	400
小学6年生	200	200	400
中学1年生	200	200	400
中学2年生	200	200	400
中学3年生	200	200	400
合計	1,200	1,200	2,400

※「子ども調査」に回答した子どもの保護者2,400人にも、兄弟構成や子どもが通っている学校種別、子どもと一緒に過ごす時間などの属性項目を聴取している。

- ◆調査時期 : 2025年9月12日～10月7日
(2024年調査 2024年9月13日～10月8日、2023年調査 2023年9月15日～10月10日)
- ◆企画・分析 : 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所
- ◆実施・集計 : QO株式会社
- ◆調査パネル : 株式会社 マクロミル

「こども定点2025」の調査レポートを発刊しました。



A4版、52頁

主な内容

●質問分野別に見る

- 体験 : ふだんしていること(よくしている)/これからしたいこと
よくする趣味や遊び/よくするスポーツ/この1年でした年中行事
- 人との関わり : ふだん接している人/好きな人
まわりの人との関係性/参考にする考えや意見
- 価値観 : 大切だと思うもの/一員、なかまと感じるもの/増やしたい時間
いまの気持ち/将来の希望
- 自己認識 : いまの自分/なりたい自分/自己評価
- 総合評価 : 自分満足度/生活満足度/しあわせ度

●調査対象者別に見る

小学生男子/小学生女子/中学生男子/中学生女子

こども研究所サイト「こども定点2025」ページでは、「調査レポート」の資料請求や、質問文や選択肢をまとめた「調査項目一覧」がご覧いただけます。

<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/teiten2025/>



本件に関するお問い合わせ

- 博報堂教育財団 こども研究所 担当：亀田・島津
<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/contact/>(財団お問い合わせページ)

【公益財団法人 博報堂教育財団】

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、あわせてその活動に関する調査を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生いたしました。その後、2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しました。設立から50年以上を経た今日では、「子ども」「ことば」「教育」を活動領域ととらえ、設立以来の事業である児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」「日本語交流プログラム」「日本語教育プログラム」「社会啓発事業」「調査研究事業」など、さまざまな活動を行っています。

【公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所】

博報堂教育財団 こども研究所は、弊財団の調査研究事業の一環で、2017年に設立されました。独自の調査や実験的な取り組みで子どもの姿をありのままにとらえ、その新たな可能性を発見します。さらに、それを社会と共有することで、子どもに対する見方やイメージを広げていくことを目指しています。



こども研究所ホームページでは、調査研究の結果を広く公開しています。
<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>